

第1・2 学年国語科学習指導案

日時 令和2年10月15日(木)
対象 1年生 6名(2年生 2名)
指導者 小野寺 育子

1 単元名 おもいうかべながら よもう
教材名 「くじらぐも」(光村図書 1年下「ともだち」)

2 単元の目標

- (1) かぎ(「 」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。[知識及び技能] (1) ウ
(2) 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
[思考力, 判断力, 表現力等] C (1) エ
(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力, 人間性等」

3 単元について

(1) 児童について

- ・「おおきなかぶ」では、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読したり、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えたりする学習を行った。
- ・動作化したり、声を合わせて音読したりして楽しむことを経験している。

(2) 教材について

- ・本教材は、児童が自分にも起きるかもしれない出来事として想像して読むことができる物語である。
- ・物語の開始の場面は身近で入りやすく、自分だったらこんなことを言う、こんなところにも行きたい、などと想像を広げながら読みやすく、具体的に想像することをねらう本単元において適材である。

(3) 指導にあたって

- ・本単元における言語活動
 - 登場人物の行動や言ったことを具体的に想像し、伝え合う。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫等
- ◆西中学区視点①【学習意欲の向上について】
 - 子どもたちとくじらの会話のやりとりが視覚でも捉えられるように、黒板に吹き出しで示す。
 - 自分だったらと感情移入しながら読めるように、挿絵の子どもたちの様子や表情に目を向けるよう助言する。
- ◆西中学区視点②【言語活動の充実について】
 - 子どもたちとくじらの様子を動作化させたり声の大きさや速さを工夫して音読させたりして、一人一人が想像したことを共有させる。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① かぎ(「 」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。 (1) ウ	① 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 C (1) エ	① これまでの学習をいかして積極的に想像を広げて物語を読み、想像したことを友達に伝えようとしている。

5 指導と評価の計画（全8時間）

	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
第一次	1	・14ページの「がくしゅう」を読んで、学習のめあてを掴む。	・「おおきなかぶ」の学習を想起し、「おもいかべながら」読むために、登場人物の行動を動作化したり、登場人物になりきって言ったことを考えたりしたことを確かめる。	【態】「くじらぐも」を、想像を広げながら楽しんで読もうとしている。 (発言・ワークシート) 【知】語や文のまとまりに気をつけて音読している。 (音読)
	2	・「くじらぐも」を繰り返し音読し、「いいな。」「好きだな。」と思ったところを発表し合う。	・「くじらぐも」を読むことへの関心・意欲を高めるために、各場面の挿絵を黒板に掲示する。	
第二次	3	・挿絵を手がかりに大体の内容を捉える。 ・誰が何をした話かを、1文にまとめる。	・順不同の挿絵を正しく並べ替えることで、誰が何をしたかを確かめる。 ・誰と誰が出てきたかを全体で確かめてから、何をした話か、続きを書くように指示する。	【知】会話は「 」で示すことを知り、正しく表記している。 (ワークシート)
	4	・出会う場面での子どもたちとくじらぐもの様子を、想像を広げながら読む。	・「子どもたちが」→「くじらも」、「みんなが」→「くじらも」、「せんせいが」→「くじらも」に着目させて、真似をするくじらの様子を想像できるようにする。 ・「一、二、三、四。」「まわれ、右。」「あのくじらは、きつとがっこうがすきなんだね。」を <u>視写し、声の大きさや速さを工夫して音読する</u> ように指示する。	
	5	・くじらぐもに跳び乗ろうとする子どもたちの様子を、想像を広げながら読む。	・くじらぐもに乗るまでの子どもたちとくじらぐもの様子を、 <u>動作化を通して想像し、声の大きさや速さを工夫して音読する</u> ように指示する。 ・だんだん高くジャンプする子どもたちの気持ちの高まりを音読で表せるように、黒板に掲示した吹き出しの高さをだんだん上げていく。	【思】くじらぐもに乗りたい子どもたちの様子を具体的に想像している。 (発言・ワークシート)
	6 本時	・くじらぐもに乗って空を旅する子どもたちの様子を、想像を広げながら読む。	・子どもたちがくじらぐもの上でどんなことを話したかを想像し、挿絵の子どもたちになったつもりで <u>吹き出しに書く</u> ように指示する。 ・想像の手掛かりとして、くじらが進んだ方(海, 村, 町)に何が見えるか考えるように助言する。 ・子どもたちの様子のまとめとして、みんなが歌を歌った理由を問う。	【思】くじらぐもに乗って空を旅する子どもたちの様子を具体的に想像している。(発言・ワークシート)

<p>第二次</p>	<p>7</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・くじらぐもに手を振る子どもたちの様子を，想像を広げながら読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがくじらぐもに手を振りながら何と言ったかを想像し，挿絵の子どもたちになったつもりで<u>吹き出しに書く</u>ように指示する。 ・想像の手掛かりとして，空の旅の楽しさを想起するように助言する。 	<p>【思】 くじらぐもに手を振っている子どもたちの様子を具体的に想像している。(発言・ワークシート)</p>
<p>第三次</p>	<p>8</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読んで想像したことを友達に伝えたり，友達の想像を聞いたりする。 ・読んで想像したことを音読で表現し，2年生に聞いてもらう。 ・単元の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の話を聞いた後は一言感想を話すように促し，感想を共有できるようにする。 ・各場面の子どもたちやくじらぐもの様子が表せるように，会話文の音読の仕方を工夫して発表するように指導する。 ・楽しかったことやできるようになったことを全体で振り返った後，個々の振り返りを書くように指示する。 	<p>【思】 物語を読んで想像したことを伝え合っている。(発言)</p> <p>【態】 読んで想像したことを音読で表現したり友達と伝え合ったりしようとしている。(発言・音読)</p>

6 本時の指導（6時間目／全8時間）

(1) 目標

くじらぐもに乗って空を旅する子どもたちの様子を、想像を広げながら読むことができる。

(2) 展開

学習活動 ・予想される児童の姿 ※「伝え合い交流シート」参照	・指導上の留意点 ◎評価 ◆西中学区視点	段階	形態
1 学習課題を確認する。 みんなは、くものうえで、どんなことをはなしたのだろうか。	・前場面の「くじらぐもに乗りたいみんなの気持ちの高まり」と結び付けて、学習課題を確認する。	導入 5分	共通指導
2 学習の見通しをもつ。	・板書を使って、想像の手掛かりと学習の流れを確認する。		
3 空の中を進むくじらぐもとみんなの様子を想像する。 ○学習場面をペアで音読する。 ○登場人物の様子を捉える。 ○雲の上から何が見えるかを想像する。	・登場人物の様子を具体的に想像できるように、「したこと」「見えたもの」という観点を与える。 ・言葉と挿絵の両方から登場人物の様子を捉えるように促す。 ・下を見ている女の子の挿絵を取っ掛かりに、雲の上から見えたものを想像するように指示する。	展開 30分	直接指導
4 雲の上でみんなが話したことを想像し、伝え合う。 ○みんなが話したことを想像して、ワークシートの吹き出しに書く。 ○ワークシートをもとにペアで伝え合う。	・みんなの様子と歌を歌った行動をつなげて想像するように指示する。 ◆①雲の上でみんなが話したことを想像して書くように指示する。 ◆②ペアでワークシートをもとに、みんなが話したことを伝え合うように指示する。 ◎【思】くじらぐもに乗って空を旅する子どもたちの様子を具体的に想像している。 (発言・ワークシート)		
5 みんなが話したことを発表する。 ○話したことを、くじらぐもの上の子どもになったつもりで発表する。	・発表者以外の児童は10ページを音読し、発表者がくじらぐもの上の子どもになったつもりで発表できるようにする。	終末 10分	共通指導
6 学習の振り返りをする。 ○ワークシートに振り返りを書く。 ・みんなはくじらぐもに乗れて、本当に楽しくて、歌を歌ったことが分かりました。 ・くじらぐもの上から何が見えるか、乗ったつもりで吹き出しに書くことができました。	・板書を活用して、叙述を根拠として想像する力が高まったことを価値付け、自己評価につなげる。		
7 次時の学習内容を確認する。	・次時はくじらぐもに手を振る子どもたちの様子を想像することを確かめる。		

(3) 板書計画



みんなは、くものうえで、
どんなことを はなしたのだろうか。

1 4を おんどく する。
2 ようす

「さあ、およぐぞ。」

青い 青い 空のなかを

うみのほうへ、
やまのほうへ、
まちのほうへ。

うみにふねが
うかんてる。
空はひろくて
きもちがいい
ね。

みんなは、
うたを
うたいました。



ふ